

野島透著「山田<sup>ほうこく</sup>方谷に学ぶ財政改革 - 上杉鷹山を上回る財政改革者 - 」

明德出版社 2002年4月30日刊を読む

## 山田方谷の教育改革

1. 方谷は、庶民教育のための学校設立にも力を注いだ。方谷が有終館(備中松山藩の藩校)の学頭に就任した天保7(1836)年には、備中松山藩の教育施設といえるものは、藩士の子弟を対象とした有終館と江戸藩邸学問所のわずか2カ所のみであった。
2. 方谷は、庶民教育の重要性を説き、野山地区(現、上房郡賀陽町宮地付近)に「学問所」を設けたほか、鍛冶町、八田部地区、玉島地区に「教諭所」を設置した。この他、家塾13カ所、寺子屋62カ所を開講するなど、教育施設の充実ぶりは、備前藩等の近隣の大藩をはるかに凌ぐものであった。「学問所」「教諭所」では、有終館から会頭が交代で出講し、助教には民間の学芸に秀でた者をあてた。優秀な生徒には賞を与え、さらには士分に登用し、役人に抜擢したので、向学に燃えた子弟が集まった。
3. 河井継之助はその旅日記「塵壺<sup>ちりつぼ</sup>」の中で農民・商人が平気でむずかしい学問を学んでいることに驚嘆している。また、他藩からの来訪者はあとをたたく、小泉八雲(ラフカディオ・ハーン)が神のような日本人と評した秋月悌次郎<sup>ていじろう</sup>(会津城開城に尽力し、のち五高教授)も、河井継之助と時を同じくして方谷のもとを訪れている。
4. また、方谷は明治維新後、大久保利通等からの新政府入閣を断って、備前岡山藩の藩校である閑谷学校<sup>しずたに</sup>(備前岡山藩の藩主池田光政が17世紀に設立したが、明治3年に閉校)を再建すると同時に、明親館、温知館など岡山県各地で子弟教育も行なった。この閑谷学校からは、大原美術館を設立した実業家、大原孫三郎もでてくる。このためか、現在も、岡山県は日本有数の教育県となっている。
5. 話を元に戻すが、さらに、方谷の弟子で、大正天皇の信望厚い侍講<sup>じこう</sup>(大正天皇の教育を行なう者)であった三島中洲は明治維新後西洋思想一辺倒に傾きはじめて世の中に危惧し、方谷の助言に従い、日本(東洋)固有の儒教道德の確立をめざし、明治10年10月に漢学塾二松学舎を創立した。

ちなみに、東京大学が開設されたのも明治 10 年である。当時二松学舎は、福沢諭吉の慶應義塾、中村敬宇の同人社と並んで、明治三大塾と称せられていた。

6 . なお、漢学塾二松学舎は、その後二松学舎大学となり初代校長には山田方谷の孫である山田準がなった。二松学舎は犬養毅(元首相)、中江兆民(思想家)、牧野伸顕(農商務大臣、大久保利通の次男)、夏目漱石(作家)、嘉納治五郎(講道館創設)、黒田清輝(洋画家)、平塚雷鳥(女性解放運動家)など、後の時代に多大な影響を与えた人材を輩出している。また、昭和 38 年には吉田茂(元首相)が舎長に就任した。

P.91 ~ P.94

#### [ コメント ]

山田方谷が行った備中松山藩の財政改革は、上杉鷹山の改革と同様、日本の財政改革のベストプラクティスと言える。山田方谷の教育改革は財政改革の底支えをするものと高く評価できる。テキストとして大いに参考とすべきと考える。

- 2009 年 2 月 7 日林明夫記 -